



114
A 3177

千八百七十七年八月十一日出版

東京タイムズ社説

自由貿易論

日本ニ於テ理財上ノ争闘

英國貿易ノ一新市

大蔵省
翻譯課

4242



114
A



東京「タイムズ」社説

「イコー」新聞ニ英國貿易ノコトヲ論ス之レ
 ヲ一讀セハ頗フル理財家ノ淺見ナル假設言辭
 ニ異ナラス曰ク英國ニ自由貿易ヲ主張スル所
 以ノモノハ不幸ニシテ未タ其鴻益ノ何物タル
 ヲ知ラサルモノ、為ニスト思フニ「イコー」記者
 ニシテ何ソ如此假裝、言ヲ描出スルヲ為サンヤ
 然レトモ「イコー」記者ハ英國ノ貿易ハ漸ク各國
 ニ於テ縮退シ其製造品ノ販賣日ニ月ニ逡巡蹉
 跌セリ是レ大ニ憂虞ノ源因ヲ醸生セリト明言

大正十一年四月
隈侯爵郵寄贈

ス其詞ニ曰ク方今利益アル市場ハ皆盡滅シテ
利スルニ是ナク然リト雖トモ新ニ開ク市場ナ
クシテ許多ノ舊市場ハ單ニ閉塞ノ年一年ヲ加
ヘテ我商品ノ要求ヲ減ス故ニ我國今日ノ急務
ハ假令其要求寡少ナリト雖トモ一ノ新市ヲ發
見スルニ在リト言ヘリ此ノ言ヲ考慮スルニ談
記者ノ實際ヲ論スルヤ寔ニ公平至當ナリ之レ
ヲ理財家ノ論スル如キ彼ノ皮相ノ仁愛説ニ比
スレハ其高尚カレ豈啻タ天淵ノ差ノミナラン
ヤ

然レトモ其仁愛説ノ如キハ常ニ務メテ自由貿
易論ノ眞意ヲ冥々ノ中ニ隱匿セリ試ニ其本
意ヲ推言セハ則チ英國貿易ノ景狀且夕危殆ニ
懸迫スルヲ患フルナリ
允リ何レノ國ヲ問ハス己レ製スル所ヲ以テ五
州各邦ニ充滿セシメント欲シ偏ニ製造ノ一途
ニ固着セハ到底衰潰盛迫ノ弊害ヲ免レス如何
ントナレハ一時各國競フテ製造ニ從事スヘキ
ト言フ欲或ハ之レヲ他ニ覓ムヘシト公言スル
ノ事アレハナリ

世ニ自由貿易ノ行ハル、ノ間ハ英國ハ必ラス
其夥多ノ製造品ヲ陸續賣出スルナルヘシト竊
ニ之レヲ期望スルモノ無レトセズ然レトモ現
時此ノ期望ハ已ニ埋滅ス如何トナレハ「イヨー」
記者カ臆測セル如ク印度支那日本ハ日ヲ追テ
英國貿易ノ網羅ヲ脱セントスルノ状勢ヲ現出
スルカ故ニ英國ハ又好機會ヲ待ツテ朝鮮ト交
易ヲ開クヲ得レト「イヨー」記者ハ此ノ一事ヲ
以テ幾分カ其憂慮ノ念ヲ慰スルモノ、如レ然
リ而レテ日本政府ハ自由貿易ノ主旨ヲ信認セ

ルモノト「イヨー」記者ニ於テ之レヲ誤解シタル
ハ豈亦奇ナラサラン乎
「イヨー」記者曰ク重要ノ件トシテ朝鮮ヨリ吾儕
達スル新報ハ即チ商家ノ之レヲ着テ以テ安
慰スルニ足ルモノナリト念フニ商家之レヲ以
テ安慰トスルニ足ルヤ否ヤ知ル能ハスレテ所
謂ル其安慰トスル者ハ必ス決シテ永遠ニ期ス
可カラス精密ニ該國ノ景状ヲ觀察シ圖ラハ永
遠ノ利ヲ得レテ期ス可カラサルモノ、如レ試
ニ思ヘ歐洲人未タ此ニ着意シ足ラ止メサルニ

先ンジテ早クモ日本人民ニ於テハ先鞭ヲ着ケ
假令其國要需寡少ナルモ之レカ供給ヲ成サ
ント欲スルノ日既ニ久シカルヘン
吾儕以為ラク英國「トルミンダ」ノ製造品ヲ
以テ朝鮮ニ輸出スルハ恐ラク難カル可シ又朝
鮮貨幣ヲ載レテ萬里ノ波濤ヲ航シ遠ク英國ノ
一部タル「ベルミンダ」ニ到達セシメント欲
スルモ亦到底中止セサルヲ得ス
「イコー」記者ハ英國後來貿易ノ籌策ヲ畫スルニ
其正鵠ヲ失スルニ似タリト雖モ現時英國貿易

危殆ノ景状ヲ詳悉セリト言ハザルヲ得ス而シ
テ彼ノ皮相仁愛説ノ如ク自由貿易ハ其切徳最
モ大ニシテ廣ク天下ヲ仁愛スル所以ナリト假
裝ノ公言ヲ吐露シ終ニ自由貿易ヲレテ笑嗤ニ
堪ハサル理ナク且ツ信ス可カラサル宗教ノ奇
異ヲ説クカ如クナラシムル拙事ナキハ寔ニ吾
儕ノ「イコー」記者ヲ金玉視スル所以ナリ

自由貿易論

東京^{イイ}記者ニ呈ス

前週余カ寄送セル所ノ論旨ハ足下未タ全ク徹
底セサルノ意ヲ短句中ニ含蓄セルモノ、如シ
依テ今尚ホ其論ノ餘意ヲ申明シ以テ足下ニ呈
セントス

抑モ英人ノ自由貿易ノ民タルハ足下總カノ思
考ヲ要セスレテ然ルヲ知ラン吾儕護ニ自由貿
易ヲ主張スルニ在ラス只其可トスヘキ所ノミ
ヲ以テ信スル所アリ今前論ニ續テ判然之レカ

解ヲ下^タストス輓近ノ英新聞ニ云ヘルアリ曰
ク英製ノ物品粗悪ノ故ヲ以テ其令聲ヲ稍々各
國ニ失ハントス是レ特トニ着意セスンハアル
可ラス而シテ製造者ノ為ニ謀ルニ後來ノ損耗
ヲ未然ニ防クノ果斷ヲ要ストナリ世人或ハ其
果斷ノ一措置ハ物貨ノ質ヲ改良スルニ在リト
憶測スルモ宜ナリ而シテ談記者ノ意モ亦之レ
ニ外ナラス閑話止題試ニ他國ノ物品製造ニ
優レルモノヲ以テ之レニ着飾ヲ施スニ英國ノ商
標ヲ以テ販賣スレハ容易ニ其結果如何ヲ明知

スルヲ得ハシ現時日本ニ輸入ノ物品此ノ類ニ
鮮シトセス就中淺黄布白布ノ如キハ頗アル多
シトス今其原因ヲ追糺シ来ラハ米國ニ於テ已
ニ之レヲ製ス其高測ル可カラス而シテ修飾ス
ルニ英ノ商標ヲ以テセサルハナシ之レニ因リ
テ是ヲ觀レハ英國ノ粗造者ハ却テソノ令名ヲ
維持セラレテ英國ハ其棉布良質ノ美評ヲ得ル
ヤ明ラカナリ今若シ之ヲ法律上ニ於テ論スレ
ハ敢テ一モ罪惡ト言フニアラス然レモ若シ之
ヲ罪惡ト云フニ至リテハ吾儕ハ素ヨリ法律ヲ

遵守奉スルノ民ナレハ之ヲ不問ニ付シテ敢テ論
スルヲ欲セス
嘗^客歲我國ノ屠牛者ハ米國ノ牛肉ヲ誣譖シ其輸
入ヲ拒カント欲シタル奸謀ヲ行ヒシ外ニ一
惡事アルナシ其屠牛者ノ所為ハ老牝牛ト餓死
ニ壘ントスル疲牝牛數頭ヲ買得テ之ヲ屠殺シ
以テ米國ノ牛肉トシテ賣出シ又米國真成ノ肉
ヲ英肉トシテ販賣セリ念フニ其詐詔早ク新聞
社之ヲ探偵シタルニ在ラサレハ則チ或ハ其策
ハ甚タ好ク成功シタルナラン

足下之ヲ知ル日本ノ鐵道ハ英ノ工師之ヲ築造シ
英人ハ常ニ務テ之ヲ管理スルヲ然ルニ余之ヲ道
路ニ聞一米國ノ好事者アリ日本政府ニ請テ試ニ
一鐵路ニ米製ノ藻車ヲ架装シ其費用ノ如キハ實
際至當ノ處ヲ以テスト該政府以為ク其事誠ニ緩
裕ナリト此ノ時ニ當テ英人ノ威勢猶ホ能ク之ヲ
挫折スルヲ得タリ蓋シ英人ノ膽力能ク物ヲ割ス
ルノ權柄ヲ得レハ則チ一物トシテ已レカ意ノ
如ク達セサルハナシ若シ足下疑團ヲ抱カハ試
ニ我汝ニ問フ何等ノ工場ヲ問ハス苟モ一英人

管理スルモノヲ見ヨ是下果セラ其用フル處ノ
機械ハ佛カ獨カ將タ米製ノモノナルヲ者ルコ
ト實ニ稀ナルベシ是レ試ニ英俗ノ豪邁ト感カ
ノ能ク物ヲ制スル所以ナリ

前週余試ニ米國人ニ説クニ英國製造ノ進達ヲ
以テレ兼ネテ我製造品ヲ購求センコトヲ進達
シテリキ而シテ又自由貿易ノ彼レニ利アルモ
失ナキヲ説キ幾多ノ米國人コソ論ニ感服セリ
且ツ貿易自由ナレハ米穀其他ノ物件ヲ以テ自
儘ニ製造品ト交換スルカ故ヲ以テ製作ノ費用

ヲ減シ從フテ米穀等ノ直價ヲ騰貴セシムト喋
々之レヲ辨説セリ吾儕曾テ米國ノ議員ニ撥金
ヲ給シ務メテ其沈腐ノ思想ヲ放擲シ開進ノ政
圖ヲ主張セシメタリ彼等果シテ真ニ然ルヤ否
ヤ知ルベカラスト雖モ到底我カ利ヲ圖ラシメ
タルニ外ナラス然リト雖トモ斯ノ如クシテ余
敢テ米國ノ自由貿易論者ヲシテ能ク余カ論
服サシメタリト言フニ在ラス素ヨリ其論者ノ
大半ハ其説ニ於ルヤ質直忠誠ニシテ自カラ固
ク自由貿易ヲ信認スルカ故ニ其論ヲ主張スル

モノナリ然リ而シテ今日ニ至ルマテ英國ノ商家及ヒ製造者ハ詳細ニ自由貿易ノ得失ヲ統計シ及ヒ之レカ討論ヲ遂ケタルモノヲ以テ自費ニテ屢ハ世ニ公布シタリ此ノ故ニ論者徃々其意見ヲ變換シタルモノアリ而シテ時々自由貿易ノ利アル所以ヲ書シテ彼レニ迫ル蓋シ沈腐ノ說ヲ放擲セシメンカ為ナリ而シテ吾儕ハ天下ノ人心ヲレテ皆我カ思想ノ如クナラシメントスルニ於テ意ソ其苦勞ヲ厭フコトヲ成サンヤ今各國ノ製作ハ我カ策術ニ因テ全ク

破碎絶滅シ海関稅ナクモテ自由ニ貿易ヲ成シ天下ノ海港到ル處口悉ク拳テ我カ製造品ヲレテ輸入セシメハ此ノ時ニ於テヤ貿易上ハ所謂無量福壽圓滿ニ至レハ即チ英國ノ猛獅ハ宜シク外國ノ羣羊ヲ驅逐吞噬セント欲ス豈ニ一大愉快事ナラサランヤ

千八百七十七年八月八日

在東京 英國一商賈

日本ニ於テ理財上ノ争闘

理財兩派ノ論戦士既ニ角闘ス今回其道場ヲ又
日本ニ開ク而シテ東京「タイムス」ハ保護稅説ニ
シテ「タイムズ」新聞ハ彼ノ自由貿易ヲ主張セル英
國論者ノ地位ニ居レリ然リ而シテ「タイムズ」ハ其
論壇ノ中英ニ踊躍勇進シテ陸續數篇ヲ綴リ出
シテ日本ノ讀者ニ呈シタリ又「タイムズ」ハ偏重
ニ日本讀者ノ為メニ曩キニ理財説ニ篇ヲ掲出
シ以テ「タイムズ」ト反對激動カヲ起セリ
其第一篇ニ記者ハ事物ノ根源ヲ説キ又組織成

立ヲ論シ出セリ蓋シ組織成立スルノ事物タル
ヤ循環変交スルノ間皆自然ノ妙法ニ從ヒ千狀
萬態ノ物ニ現シテ其轉變窮マリナシト雖トモ
其結果ノ帰着スルヲ推究スレハ終ニ蔬菜ト食
肉ノ二者ニ化シテ精靈ノ留宿セル人體ヲ成育
スルノ功ヲ奏スト言ヘリ又人類ノ増殖ハ人智
ヲ誘進スル所以ニシテ能ク事物ノ變換ヲ制シ
一變動アル毎ニ心ヲス一利ヲ興起シ以テ人類
ニ其利益ヲ付與セシムルモク即チ人智是ナリ
故ニ國土ニ棲息スル人類ノ増殖スルニ於テハ

國カト富實トハ之レニ隨フテ増加セサルヲ得
ズト談記者ハ開陳論及セリ吾曹今其論旨アル
處ヲ察スルニ允ソ政府タルモノ、一最大緊要
ノ義務ハ常ニ務メテ人智ノ湊合カヲ將ツテ人
民ヲシテ能ク事物ノ轉變ヲ制御セシメテ以テ
其業ニ就カシムルニ在リト臆測セサルヲ得ス
吾曹今又其篇ノ結局ヲ視ルニ憂虞ノ念ヲ晷刻
ニ忘レサル理財家ノ說ヲ擯弁セルモノ、如シ
其論ニ曰ク人口ハ愈々増殖スト雖トモ利用厚
生ノ道ハ之レト駢馳セズト言ヘリ又曰ク製造

品ヲ他方ニ仰カハ工業之レカ為メニ委靡シ民
ヲシテ徒ラニ手ヲ空ノスルノ弊アリト雖トモ
本邦ニ於テ製作スル實費ニ比スレハ僅少ノ金
貨ヲ以テ他國ノ製造品ヲ購求スルニ如カスト
言ヘリ

其第二篇ノ冒頭ニ曰ク凡ソ人ノ第一務ハ先ツ
食ヲ得ルニ在リト言ヘリ然レトモ今此ノ論題
ヲ以テ^我何レノ中學校ニ於テモ其博士ガ經濟生
徒ニ其是非ヲ質問セハ生徒ハ謔言ニ附シテ答
辨スル者ヲラスト吾曹ハ之レヲ想像セサルヲ

得ス然レトモ吾曹ニ於テハ之レヲ非トスルニ
在ラス其主義ニ於ケレバ明々瞭々火ヲ觀ルノ
易キカ如シ而シテ之レハ是レ理財ノ大本ニ基
ケルモノナリ然リ而シテ其之レヲ教示スルノ
方法ハ即チ^{シテ}讀譯法ニ太々好シ又經世濟民ノ眼
目ヲ陳述シテ曰ク國民ヲシテ皆其勞スル處極
メテ僅少ニシテ膏粱ノ食ヲ得セシムルノ方法
如何ヲ教ユヘシト
吾曹謂ラク日本人民ハ^撫シテ之レヲ言ヘハ未
タ全ク「アダムスミス」及ヒ「ケヤレ」ニ氏ノ論ニ

適合スル地位ニ至ラスト雖トモ其學士社會ハ
既ニ兩大學士ノ論ヲ了解スルヲ得タリ然ルニ
彼ノ輩ハ一種ノ自由貿易論ニ依テ窘迫セラレ
テ其國方ニ漸ク其困弊ヲ覺ルニ至レリ然レモ
其衆民ニ至リテハ惘然トシテ之レヲ知ラサル
モノ、如シ

從來日本ノ工業依然トシテ其進歩ナキ所以ハ
百工製作ヲ慫慂誘掖スルノ術ナキカ故ナリ試
ニ着テ西方諸國ノ產物ヲ低價ニテ日本ニ輸入
スルヲ得ルモノハ果シテ其財本固着堅牢ナル

ト製作ノ方法改良セルトニ因ルモノナリ此ノ
故ニ日本ハ銳意以テ製造ノ法ヲ設ケサルベカ
ラス而シテ其製造品ヲ他邦ニ仰カスレテ自カ
ラ之レヲ製スルノ域ニ進歩スルマテハ幾多ノ
歲月ヲ經スンハ能ハス蓋シ其國中等ノ人民カ
吾曹ノ己ニ百年前ニ於テ為シタル事ヲ遂ケル
ニ至ラサレハ其域ニ進ムヲ得サルヘシ今之レ
カ措置ヲ施スノ一着歩ニ即テ國用ニ足ルノ生
材ヲ造作シ其餘剩ヲ以テ外邦ニ輸出ス可シ而
シテ而シテ之レヲ外國ニテ購求スルモ亦幾許

ノ利ヲ得ルモノナリ
允ヲ何レノ國ヲ問ハス自カラ其需用ノ物品ヲ
製スルヲ得ルト雖トモ徒ラニ之レヲ成サスレ
テ尚ホ他邦ニ仰クカ如キ策ヲ施行スルノ間ハ
素ヨリ其國幼穉ノ景状ヲ免カレス
今ヤ日本製作ノ衰廢ヲ未然ニ防グノ策ハ敢テ
舊慣ヲ挽回スルニ在ラス試ニ視ヨ往昔羅馬人
カ西邦ノ野蠻ニ教ヘシ武藝ヲ以テセシニ蠻民
ノ點智捷敏却テ其厚誼ヲ利シ酬ユルニ驚愕ス
ヘニ高利子ヲ以テセリ吾曹熟西邦ノ景情ヲ察

スニ昔時嘗テ西方ノ諸國ハ多年ノ間銳意奮
興シテ天工ノ富源ヲ開發スルノ業ニ從事シタ
ルカ故ニ今日尚ホ其餘贏ノ存スル有テ自ツカ
ラ皆豐饒殷富ノ勢ヒアリト雖トモ日本ニ於テ
モ國勢ヲ振張ニ以テ之レト拮抗セント欲セハ
此ニ一ノ道路アルアリ此ノ道ハ何ソヤ曰ク英
國王第三世「エドワード」ノ智畧ヲ模擬シ熟達老
成其術ヲ得タルノ外國職工ヲ召聘シ以テ之レカ
一着歩ヲ成スニ在リ而シテ一工業ヲ開キ外ハ
廉賤ナル物貨ノ輸入ノ競争ヲ防キ内ハ自給ノ

策ヲ立テ其功ヲ奏スル之後ヲ始メテ保護議止ムヘレ
方ハ日本ハ外國條約中貿易規定アルニ依テ直チニ其策ヲ施ス可カラスト雖トモ此ノ規程ハ敢テ永遠廢止スルコト能ハスト言フニ有ラス
吾曹之レヲ道路ニ聞ク英政府竊ニ日本ニ人ヲ逆リテ説クニ其生糸ヲ歐州ニ輸シ其製出ヲ待テ爾後之レヲ購求スハ是理財法ノ堅牢ナルモノナリト吾曹以爲ス如キハ畢竟運輸貿易シテ重複ノ利ヲ得ルカ故ニ素ヨリ此ノ貿

易者煤ハ爲ニ取テハ良策ナル可シト雖モ然レトモ日本全國ヲシテ盛大ニシテ自給保持ノ域ニ達セシムルコトナキヤ必セリ故ニ日本國先ツ内國日用需求ノ物貨ヲ製セサル可ラス
且熟達老成ノ職工ト改良ノ機械ナカル可ラス加之百工製作保護ノ法亦ナカル可ラス請フ者ヨ今日ノ我合衆國ハ製造ノ餘剩ヲ海外四方ニ出レ以テ彼我其利ヲ得共便ヲ得ルアルヲ

英國貿易ノ一新市

ロンドンイコー新聞

英國製造ハ從來利得アレ市場ヲ墮敗シ新タニ
開ク可ク地ナクシテ許多ノ舊市場ハ漸々閉塞
レ年一年ヲ加ヘテ「メンチエストル」ノ紡績機械或
ハ「セツピキールド」ノ鐵器ノ要求ハ「カナダ」及「合衆
國」於テモ亦タ減縮スルニ至レリ之ヲ要スル
ニ米國ノ製造我レニ卓越シタルニ因ナリ故ニ
今日ニ至リテハ我ヨリ他ノ處ニ輸入スルニ在
ラスレテ却テ新英國ノ「棉織工」メンシルバニ
ヤノ鑄鐵工及「鐵匠」等ハ其製作品ヲ我ニ奪ハス

ルニ至レリ加之時昔我カ權利壟斷ノ市場ニ今
亦タ彼レ競フテ之レニ命タス其物價ノ如キ我
レニ私スレハ敢テ毫釐ノ差ヒアル事ナレ
然ルニ我カ殖民ノ地ハ往時我レニ仰キレ處ノ
物件ヲ漸ヤク得ニ自カラ製セントスルニ至レ
リ假令彼レ此ノ事ヲ成サストモ我カ利ハ常ニ
他國ノ競争ニ因リテ窘蹙セラレタリ況ンヤ今
マ彼レ之レヲ成スニ於テヲヤ而シテ其他國ナ
ルモハ疇昔我カ賣主ノラカルハナシ之レ
樂言セハ製造者増殖シテ買客ノ數尚ホ舊ニ

ル所以ナリ故ニ我カ國ノ百工製造者ノ為ニ
今日急務ト為スモノ、假令要求寡少ナリト
イヘトモ唯一ノ新市場ヲ發見スルニアリ然レ
モ亦之レヲ印度ニ望ムヘカラス蓋レ印度ハ
人口ノミ繁殖ニシテ貧窶ナリ曩キニ「ゲンゲス」
江隈ノ一大石炭山ヲ開掘シ又鐵道ヲ落成シテ
ルノ後ニ至リテハ土民勞役ノ價ニ彌ヨ下落ス
又此ヲ以テ「メンチエスト」ニ「ベルミング」ハ及ビ
「ニウテス」ルノ製造品ヲ輸入シ以テ其地ノ百
工ヲ壓倒スルヲ能ハス却テ此ノ地ノ工業毎

増殖セリ故ニ其地へ輸入ノ物件モ亦隨テ減
少セサルヲ得ズ

吾儕曾テ支那ヲ以テ墨國ノ「エルドラド」ノ如キ
モノナル可シト視做セシニ豈ニ料ランヤ歐州
人種ヲシテ誓テ彼ノ内地ニ入ルヲ免ルサス素
ヨリ海港ノ日尚ホ淺シト雖トモ中華ニ於テハ
外夷ヲ擯斥シ美麗ノ綿布鍊利ノ鐵器ヲ用ユル
ヲ要セシメテ尚ホ速ニ其海邊居留ノ人ヲシテ
退居ニシムベレト且ツ日本モ亦同論ナリト言
今又内部亞非理加アリト雖トモ景狀頗ル渺

漠ニシテ利得アル貿易ニアラス開明的ノ貿易
ニモ有ラサルナリ又人口稀少ノ中央亞細亞ノ
如キ、行クコトヲ得ルト雖トモ之レト交易シ
難レ如何トナレハ魯國ノ既ニ之レヲ制服シタ
ル故ヲ以テ恐ラクハ其壟斷スル所トナラン
天下ノ景況槩ニ如此ナルカ故ニ重要ノ件トシ
テ吾儕ニ達スル朝鮮ノ新報ハ即チ商家ノ之ヲ
見テ以テ安慰スルモノトス抑モ此深淵不測ノ
半島ハ支那人ヲ除クノ外ハ一切拒絶シテ入ル
ヲ免ルサス而シテ復令支那人ト相ニ往來スル

モ尚ホ未タ之ト貿易セサルニ於テハ其他各國
ヨリ貿易ヲ求ムルモ防グニ足レリト其安排功
慧斯ノ如シ故ニ萬國ニ貿易アルモ彼ノ民之レ
ニ預カラスレテ敢テ一物ノ交換ヲ欲セス此ヲ
以テ各國之レト伍テ成サスレテ往々其敬禮ヲ
失スルニ至レリ斯ク痛ク外交ヲ拒絶シテ偏ニ
孤立レタルカ故ニ東邦伊太利亞ト緯名ヲ下サ
レハルニ至レリ佞令支那人ト雖トモ其内地ノ
景狀ノ知ラス況ンヤ其他ニ於テヲヤ然リ而レ
テ其王ノ支那帝ノ隸屬ナルノミナラス貢ヲ納

メテ毎年北京ニ使節ヲ遣リ叩頭ノ禮即チ君臣
ノ儀ヲ執行セシム斯ル間ハ尊大自矜ノ支那人
ハ敢テ朝鮮ヲ心頭ニ関セス只言フ朝鮮ハ支那
南邦ノ地形ニ於テ恰モ長鞋ノ如クナリト雖モ
之レヲ以テ支那人ハ自負華言ヲ下レ此ノ地ヲ
名稱シテ朝陽ノ鮮明ナルモノニ比シテ朝鮮ト
ハ言ヒタリ
今ヤ支那人ヨリ幾層ノ志氣アル日本國民ハ遠
ク東方ニ於ケル孤立鎖港ノ國民中最尾ノ朝鮮
ト交通ヲ開クコトヲ決シ既ニ和親交易ノ議ヲ

締約セリ是ニ於テ^ハ予始^ハメテ此ノ繁昌世間ニ
入ルナルヘレト期望セサルヲ得ス蓋シ朝鮮ノ
如キハ貿易上ニ於テ之ヲ論スルトキハ僅ニ
一日ノ勞役ニ充ルニ足ラサルモノト世人ノ之
レヲ思フヤ稍ヤ久シ

數年前耶蘓宣教師ハ深ク朝鮮ノ内地ニ入りテ
ニ民ノ愛宗セルモノ一萬一千有餘人アリト云
フ其効功ヲ奏セリヤ實ナリ然リト雖モ彼等彼
地ニ於テ生死レ外邦ニ出^ルルカ故ニ今日ニ至
ルマテ其地ノ景況如何ハ吾濟ハ得テ知ル可ラ

ス
曩キ一佛人ハ此ノ土民ヲ煽動シテ宣教師ヲ屠
戮セントシタリ然レトモ此ノ機會ニ乘レテ攻
伐シタルニアラサレハ真ニ屠殺セルヤ否ヤ吾
儕之ヲ信スル能ハス而シテ支那日本ニ游歴シ
タル朝鮮人ハ陽ニハ自國ノ強弱取ルニ足ラサ
ルト云フト雖トモ彼元來貿易者ノ貪心ヲ惹キ
起サ、ラシメンヲ欲スルモノナシハ又怪レム
ニ足ラス
試ニ惟ンミルニ其地沿海ノ里程ハ殆ント一千

五百英里ニシテ其廣袤ハ大英國或ハ伊國半島
ニ等シク人口ハ現時一千万若クハ千二百万ヨ
リ下ルコトナシ其地硯角ト云フ雖トモ鑛物
ニ富ミ加カノミナラス小麥大麥蕎麥粟菽及ヒ
支那普通ノ蔬菜ノ如キハ皆ナ夥多沃饒ナリ就
中檀楮麻上等品種ノ綿ヲ繁殖シ且ツ駒馬ヲモ
產出ス是レ所謂ル天府ナリ而シテ其產出物ノ
中テ最モ良價ナルモノハ人參ナリ自古支那人
ノ之レヲ貴重スル_レト恰モ黄金ノ如クニシテ之
レヲ評價スルモ亦タ黄金ト等レク權衡ヲ爭フ

ニ至レリ又牧羊ノ事ハ堅ク禁シテ許サス之レ
何等ノ理由ナルカ會得レカタシ
モ_ッス_ノン_氏ノ説ニ依レハ朝鮮ニ於テ上古ヨリ
金銀ヲ開掘セリ故ニ之レヲ輸出スルニ餘贏ア
ルノミナラス嘗テ其國ノ一君ハ寶玉ノ棺柩ヲ
以テ葬ラレタリト言ヘリ銀銅錫鉛鐵石炭ノ類
皆上等ノ品ニシテ且ツ夥多ナリ要スルニ朝鮮
ハ貿易上ニ於テ吾儕等ヲ呼招ス_ルノ一新市場
ト言ハサルヲ得ス
朝鮮人ハ自己ノ供給ニ足レルカ故ニ敢テ吾儕

等ニ接スルヲ欲セサルハ素ナリ或ハ日本國人
民ト雖トモ曩キニ頗フル主張セル自由貿易論
ヲ敝屣ノ如クシ以テ自給ノ策ヲニント欲スル
ニ至ル亦タ素ナリ然リ而シテ吾儕ノ期スル所
ハ到底好機會ニ乘シ各國ノ貿易者ト競争スル
ハ策ノ上ナラン既ニ東洋ニ於テ各國ノ貿易ヲ
壓シシ其利ヲ占有ス此ノ故ニコベルミングハム
ト朝鮮トノ間未ク交通ナク其金貨及ヒ精工品
ノ我カコベルミングハム州内ニ至ラサルモ是皆
吾儕等ニ於テ慶法ヲ得サルノ過々ト言フヘシ

紙數拾九葉半